

## 第8回 JCO 焼却活動第三者会議議事録

### 1. 日 時

2017年11月6日(月) 13:30~15:40

### 2. 場 所

(株)ジェー・シー・オー 東海事業所 (第4会議室)

### 3. 議 題

- (1) (株)ジェー・シー・オー代表挨拶・出席者紹介
- (2) 前回議事録の確認
- (3) 前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況
- (4) 焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告
- (5) 焼却設備の見学
- (6) 質疑・意見交換・その他

### 4. 出席者

別紙のとおり

### 5. 配布資料

- ・資料8-1 第8回 JCO 焼却活動第三者会議 議事次第
- ・資料8-2 第7回 JCO 焼却活動第三者会議議事録【添付省略】
- ・資料8-3 焼却設備の運転実績、排気・排水等の実績

### 6. 議事内容

- (1) (株)ジェー・シー・オー代表挨拶・出席者紹介

桐嶋JCO社長の挨拶および出席者の紹介が行われた。

- (2) 前回議事録の確認及び前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況

資料8-2について、事務局(清水)より説明し、特にコメント等はなかった。

- (3) 主査挨拶

前回は腐食の関係の報告で懸念されることもあり、その後の対応が今回報告されると思う。さらに先ほど紹介のあった、これまで焼却してきた溶媒とは異なる種類の溶媒を燃焼させていくとのことなので、活発な議論をお願いしたい。

- (4) 焼却設備の運転実績、排気・排水等の実績報告に関する質疑

(住民代表)

排水管は三菱原子燃料と同様な常時監視システムを設置しているのか。漏洩等があってはならな

い。排水管は相当老朽化しているはずであり、万が一漏洩したときの対策はできているか。

(事務局)

排水管常時監視システムは三菱原子燃料と当社が同時期に同様のシステムを設置した。排水管の末端を閉じ、工場内から末端まで清水を封入して加圧・保持し、漏洩が発生した場合は警報が吹鳴するシステムとしている。また腐食対策として、三菱原子燃料の寮の前までの単線区間の配管の内側はインパイプ工法およびピグライニング工法と呼ばれるガラス繊維のライニング防食、配管の外側は全線電気防食を施している。

なお、排水については、東海村の排水監視会で毎年、放水状況・排水管の健全性を確認いただいている。

(有識者)

冷却塔に設置したテストピースは緑色に変色し負荷がかかると思うので、今からテストピースの様なものでカバーすることで、装置が延命できるのではないか。

(事務局)

カバーするものは同様に腐食されることになる。腐食されるものをカバーとすることは困難と考えられる。その代わりに年1回は設備を開放して点検することになっている。

(有識者)

緑色に変色した根本原因は何か。

(事務局)

金属母材のニッケルが腐食しているものと考えられる。

(事務局)

腐食環境でも温度条件が全く異なる場所がある。テストピース部分は600℃程度の熱風が直接当たるが、冷却塔本体は2重構造で内部は冷却水が循環されており、100℃以下に制御されている。テストピースを設置したことで冷却塔本体を保護できると考えていたが、テストピースが腐食されることで排水を汚してしまうことが確認された。排水を汚すことによって排水処理が煩雑となるので、テストピースを取り外した。

(有識者)

機械油を使っていると、種々の不純物が金属に張り付いてしまうため、これが原因とも考えられる。

(事務局)

機械油は未だ燃焼させていない。機械油は焼却の最終時期に少量ずつ灯油等に混合して焼却したいと考えているが、具体的な計画が決まった段階で紹介したい。

(有識者)

このような焼却のデータをきちんと取得しておいた方が良い。紙類を焼却するとヒ素等の問題も生じるので、これらについてもデータ取得し、何が排出されたか等根本的な原因を記録しておいた方が良い。

(主査)

緑色に変色したテストピースは稼働日数から27日間設置されており、短い期間で取り外す判断がなされた。今後は来年4月の点検までの長期間使用するが、その間に何等かの変化が起きることが

心配である。もう少し慎重に考え、来年4月まで伸ばさずに途中で状況を確認し、その後は徐々に点検のスパンを伸ばしていくことが良いと考える。

(事務局)

今回は1ヶ月程度でテストピースを取り外す判断をしたため、今後はどのように腐食が進行するか、例えば2ヵ月後に冷却塔上部を開放し、確認することとしたい。

(住民代表)

「ケロシン」の表現はジェット燃料、ロケット燃料のイメージを持つ方もいる。「灯油」と表現してはだめか。ジェット燃料、ロケット燃料は有害物が含まれ、好ましくないイメージを与える恐れがある。

(事務局)

当社で使用していたのがケロシンであり、灯油の英訳がケロシンであるため、灯油の表現を使った。

(住民代表)

TOA/オクタノールを10%混合した理由は何か。

(事務局)

TOAには窒素が含まれており、これが排気、排水側に移るので、窒素が高いのは好ましくないと判断した。

元々はTBP/ドデカンの焼却が終了した後にこのような溶媒の焼却を行う予定であったが、排気、排水基準を考えるとそのまま焼却するよりはTBP/ドデカン溶媒と混合して焼却した方が良いと判断し、早く始めることとした。事前に本会議で説明する前に焼却を開始したことは申し訳ない。

(住民代表)

オクタノールは原油のようなドロドロしたものか。

(事務局)

ドロドロはしていない。オクタノールはメチルアルコールやエチルアルコールと同じで、炭素数が8個の少し重いアルコールである。

(住民代表)

道路舗装に使用するタールの様なものの場合、バーナーに付着して燃焼が悪くなるのが懸念される。

(事務局)

オクタノールはアルコールなので燃えやすい。

(主査)

他にも新たな種類の溶媒が出てくることはないか。

(事務局)

フッ素や塩素など想定外の混入物の有無は分析してみないとわからないが、種類としては紹介した溶媒以外はないものと考えている。

(有識者)

混合して焼却したほうが良い根拠を明確とすべきである。

(有識者)

想定外の溶媒の存在有無は予想できるか。

(事務局)

フッ素、塩素は想定外であったが、これ以外は無いものと予想している。

(有識者)

操業時に使用していたものから判断すると、フッ素、塩素の混入はあり得たということか。

(事務局)

そのとおりである。

#### (5) 焼却設備等の見学(14:40~15:25)

(主査)

溶媒が入っていた空ドラム缶は強風で飛ばされることはないか。

(事務局)

空ドラム缶は日々点検し、台風が接近したら、事前に処置する。本年度から、切断等の処理を開始し、汚染のないことを確認した後、有価物としてリサイクルする。

(住民代表)

溶媒が入っているドラム缶置き場の1箇所に空間線量率の測定器を設置すれば、線量率の可視化がなされ安心である。

(主査)

モニタリングポストを設置することは費用もかかるため、空間線量調査会で該当場所の線量率を実測してはどうか。

(事務局)

(測定に協力していただいている)東海村との相談が必要であるが、空間線量調査会においてサーベイメータを用いて当該場所の空間線量率を実測することを検討する。

(主査)

原子力発電所の低レベル放射性廃棄物はレベル1~3に区分されており、レベル2が六ヶ所村低レベル放射性廃棄物埋設センター向け、レベル3が発電所内埋設処分となっているが、JCOの低レベル廃棄物はL2相当のレベルなのか。

(事務局)

当社の低レベル廃棄物はレベル3と思っているが、規制ではウラン廃棄物を除くとされており、未だ明確に区分がなされていない。常識的に考えればレベル3と考えられる。

(事務局)

見学時、溶媒の空ドラム缶が竜巻で飛ばされないかとの質問を受けたが、両端を輪止めで固定する対策を講じている。先日の台風でも問題がなかった。

(那珂市)

本会議で新しい種類の溶媒を焼却した説明があったが、事前にアナウンスがなされるべきと感じた。また、機械油類の“類”とは数種類ある油類をまとめたものなのか、或いは危険物の機械油類

なのか。

(事務局)

色々な機械を使用しており、機械油の種類はたくさんあるので、“類”と表現した。

(有識者)

機械油は(比重が)重いのでバーナーで噴霧できるのか。

(事務局)

機械油は灯油で希釈して粘性を下げるのが考えられる。

(主査)

従来より種々の溶媒を焼却することが計画されていたと思うが、焼却後に報告されるのではなく、メールでも結構なので事前に説明してほしい。

(事務局)

本会議が始まる前からどのような種類の保管溶媒があるか話題となっており、ある団体からは全ての溶媒の種類を明らかにする様、要求されていた。この要求に対しては文書で回答しており、東海村にもこの文書をお渡ししている。このような経緯もあって住民説明会では口頭説明しているが、本会議では説明しておらず、申し訳ない。

(主査)

本会議でも溶媒の種類で〇〇等の”等”には他に何が含まれているか確認をするべきであったかも知れない。これはお互いの問題であり、このようなやりとりを通じて信頼関係を築いていくことが重要である。

(主査)

次回、来年5月或いは6月まで、問題無く順調に焼却が進捗することを願っている。地元の皆様も見守って頂きたい。気になることがあった場合には問い合わせをして頂いた方がJCOにとっても良いことになる。また、色々な情報交換をしていきましょう。

以上

## 別紙

## 第8回 JCO 焼却活動第三者会議出席者（2017年11月6日開催、敬称略）

## 住民代表

No.		氏名	備考
1	東海村舟石川1区自治会	山川 典夫	
2	//	寺門 博孝	
3	//	水野 紀至	
4	東海村外宿1区自治会	吉成 幸男	ご欠席
5	東海村内宿1区自治会	本田 篤己	
6	//	黒澤 泰二	
7	那珂市本米崎自治会	海老澤 守	

## 有識者

No.		氏名	備考
8	放射性廃棄物の処理・放射線管理・保安等の専門家	吉澤 道夫	
9	//	清水 武範	
10	リスクコミュニケーションに係る専門家	土屋 智子	主査
11	近隣自治会からの推薦者	武部 慎一	
12	//	恵利 いつ	

## オブザーバー

No.		氏名	備考
1	東海村村民生活部防災原子力安全課	山村 実	
2	那珂市市民生活部防災課	会沢 透	
3	//	肥田野 強	

## 事務局（㈱ジェー・シー・オー）

No.		氏名	備考
1	代表取締役社長	桐嶋 健二	
2	東海事業所長	北村 航一郎	
3	東海事業所副所長兼総務グループ長	清水 伸剛	
4	東海事業所安全管理グループ長	佐藤 克典	
5	東海事業所施設管理グループ長	篠原 篤	
6	東海事業所安全管理グループ担当課長	大関 昇	
7	東海事業所安全管理グループ担当課長	近藤 哲也	
8	東海事業所安全管理グループ担当課長	谷 俊二	

## 第8回 JCO 焼却活動第三者会議

## 議 事 次 第

## 1. 日 時

2017年11月6日(月) 13:30~16:00

## 2. 場 所

(株)ジェー・シー・オー 東海事業所 (第4会議室)

## 3. 議 題

(1) (株)ジェー・シー・オー代表挨拶・出席者紹介	13:30~13:35	(5分)
(2) 前回議事録の確認	13:35~13:40	(5分)
(3) 前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況	13:40~13:50	(10分)
(4) 焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告	13:50~14:20	(30分)
(5) 焼却設備等の見学	14:20~15:10	(50分)
(6) 質疑・意見交換・その他	15:10~16:00	(50分)

## 4. 出席者(予定)

詳細は別紙のとおり。

## (1) 住民代表

- ①東海村舟石川1区自治会
- ②東海村外宿1区自治会
- ③東海村内宿1区自治会
- ④那珂市本米崎自治会

## (2) 有識者

- ①放射性廃棄物の処理・放射線管理・保安等の専門家
- ②リスクコミュニケーションに係る専門家
- ③近隣自治会からの推薦者

○オブザーバー：東海村村民生活部防災原子力安全課職員  
 那珂市市民生活部防災課職員

○事務局：(株)ジェー・シー・オー

以上

# JCO焼却活動第三者会議殿

## 焼却設備の運転実績、 排気・排水等の実績

2017年11月6日(月)

株式会社ジェー・シー・オー

171106第8回焼却活動第三者会議資料

1

### 1. 焼却設備計画の経緯 (2017年)

2017年

1/27 第9回 空間線量調査会

4/24 第10回 空間線量調査会

7/3 第7回 第三者会議

: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

7/20 第11回 空間線量調査会

7/25 住民説明会開催(定期) : 進捗状況報告

10/17 第12回 空間線量調査会

## 2. 焼却設備の概要

### (1) 焼却対象物

- ① 油類(保管溶媒): 灯油成分に近い石油類で作業中に使用していたもの  
 [リン酸トリブチル(TBP)-ドデカン、TOA-オクタノール  
 TBP-灯油(ケロシン)、機械油類]

約100m<sup>3</sup>(200ℓドラム缶換算約500本)

2017/2/20からフッ素、塩素の混入溶媒

2017/8/23から保管中のTOA・オクタノールを  
 10%混合した溶媒



- ② 紙類 約200本(200ℓドラム缶換算)

### (2) 焼却炉

型式                    オイルバーナー燃焼式  
 燃焼室サイズ        直径約0.9m × 長さ約2m



### (3) 焼却能力

油類(保管溶媒): 約30ℓ/時

### (4) TBP(リン酸トリブチル) 焼却後のリンの回収

TBPに含まれるリンは、

冷却塔・スクラバ・ミストフィルタ によりリン酸として回収

171106第8回焼却活動第三者会議資料

3

## 3. 焼却の運転実績および排気・排水の実績(1)

- ・2015年1月19日～2017年10月31日 累積で約57m<sup>3</sup>の保管溶媒を焼却
- ・30%TBP-ドデカンのTBP濃度で焼却(2017/2/20からフッ素、塩素の混入溶媒、8/23から10%TOA-オクタノールを混合した溶媒)
- ・排気、排水中のウラン濃度は検出下限値未満で平常時と変わらず(問題なし)

		2015年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数		日	6	6	6	14	13	12	15	11	17	13	17	10	140	
焼却処理量	溶媒液量	m <sup>3</sup>	0.68	0.67	0.59	1.51	2.19	1.57	1.85	1.31	2.87	2.09	3.15	1.85	20.31	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	200ℓドラム缶換算	本	3	3	3	8	11	8	9	7	14	10	16	9	102	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注1)</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.5×10 <sup>-3</sup>
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注2)</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0×10 <sup>-3</sup>

注1)\*: 検出下限値(3.7×10<sup>-10</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注2)\*: 検出下限値(7.4×10<sup>-4</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

171106第8回焼却活動第三者会議資料

4

### 3. 焼却の運転実績および排気・排水の実績(2)

		2016年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数 <sup>注1</sup>		日	12	16	3	9	13	15	16	13	15	13	10	0	275	
焼却処理量	溶媒液量	m <sup>3</sup>	2.25	2.96	0.47	1.67	2.20	2.75	2.94	2.28	2.80	2.44	1.72	0	44.79	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	200ℓドラム缶換算	本	11	15	2	8	11	14	15	11	14	12	9	0	224	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注2</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.5×10 <sup>-9</sup>
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注3</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0×10 <sup>-3</sup>

注1) 2016年11月下旬～2017年2月中旬まで運転停止(設備点検整備、作業者が他業務に従事)。

注2) \* : 検出下限値( 3.7×10<sup>-10</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup> )未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注3) \* : 検出下限値( 7.4×10<sup>-4</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup> )未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

### 3. 焼却の運転実績および排気・排水の実績(3)

		2017年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数 <sup>注1</sup>		日	0	6	10	0	0	5	15	7	15	11			344	
焼却処理量	溶媒液量	m <sup>3</sup>	0	1.14	1.90	0	0	0.95	2.75	1.24	2.80	2.05			57.62	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	200ℓドラム缶換算	本	0	6	10	0	0	5	14	6	14	10			288	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注2</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	測定中			*	1.5×10 <sup>-9</sup>
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注3</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*			*	8.0×10 <sup>-3</sup>

注1) 2017/2/20から運転再開、2017年3月下旬～6/15まで運転停止(保管溶媒の一部にフッ素、塩素の混入が判明、設備の腐食抑制対策、排気排水への影響確認)、  
6/16から運転再開。

8/23から保管中のTOA-オクタノールを10%混合した溶媒を焼却。

注2) \* : 検出下限値( 3.7×10<sup>-10</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup> )未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注3) \* : 検出下限値( 7.4×10<sup>-4</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup> )未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

## 4. 設備点検(1)

1) 手順書に基づく、運転前後の日常点検

2) 法令設備の点検

水濁法の特定施設のスクラバー、冷却塔について1回／月実施し問題なし

3) 冷却塔上部、煙道部の腐食健全性分解点検  
定期的に1回／年実施

(実施日2017年4月24～25日)

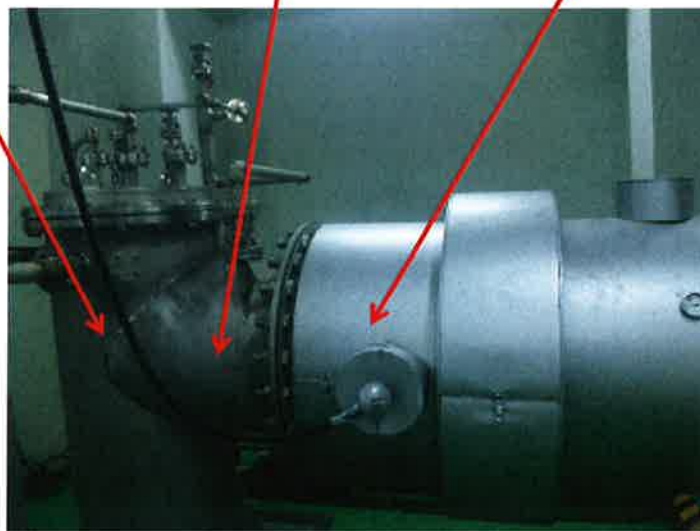
目視点検、減肉測定の結果、問題なし

次回は2018年4月の予定

## 4. 設備点検(2)

冷却塔上部、煙道部の点検箇所

冷却塔上部A    冷却塔上部B    煙道部(内部にスリーブ)



## 4. 設備点検(3) -腐食抑制対策-

### 設備の材質変更

- ・煙道配管部の材質を鉄からステンレスに交換(4/25)
- ・冷却塔熱交換器をフッ素、塩素に強い材質に交換(6/12)
- ・冷却塔上部Aの排ガスが当たる部分に、より耐食性の高いステンレス製の保護テストピースを設置(4/25)

⇒8/30に冷却塔上部を開けて腐食状況確認  
保護テストピースに腐食(緑色に変色)が認められたが、冷却塔内壁に腐食は認められず  
以降は保護テストピースを外して処理を継続

## 5. 焼却運転、設備点検の実績と今後の計画(1)

- 安全最優先で通常運転の継続
- 焼却対象  
約700本(200ℓドラム缶換算)に限定  
油類(保管溶媒)約100m<sup>3</sup>(200ℓドラム缶換算約500本)  
を焼却後、紙類約200本を焼却予定  
残りは油類(保管溶媒)約 43m<sup>3</sup>(約212本)、  
紙類約200本
- 運転期間  
約8年(油類約5年+紙類約3年) 残り約5.4年
- 運転終了後の措置  
設備解体

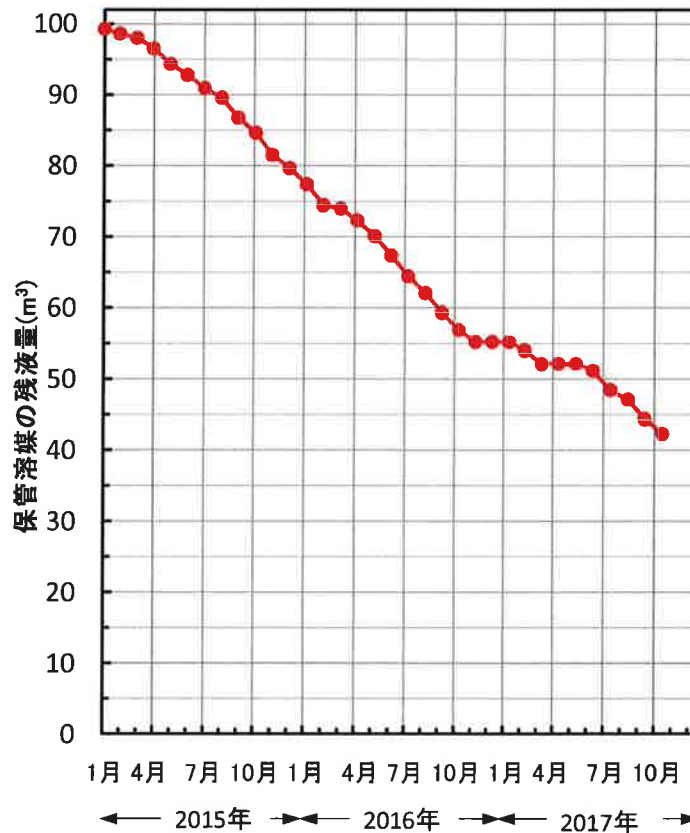
## 5. 焼却運転、設備点検の実績と今後の計画(2)

			2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
<b>1. 焼却溶媒組成</b>								
①20%~30%TBP-nドデカン(2015/5/8~)								
②30%TBP-nドデカン (フッ素、塩素混入:2017/2/20~)								
③30%TBP-nドデカン(フッ素、塩素混入、 10%TOA-オクタノール混合:2017/8/23 TBP-灯油(ケロシン)、機械油類						→		
<b>2. 累積焼却処理量</b>	溶媒液量	m <sup>3</sup>	20	44	57			
	200ℓドラム缶換算	本	102	224	288			
<b>3. 設備点検、保守 (●実績 ○予定)</b>								
①冷却塔上部、煙道部の腐食健全性 分解点検(年1回)				●	●	○	○	○
②煙道配管部の材質交換、 内部にスリーブ設置(2017/4/25)					▲			
③冷却塔上部にステンレス製 保護テストピース設置(▲2017/4/25) 腐食状況確認・取り外し(▼2017/8/30)					▲ ▼			
④フッ素、塩素に耐食性のある冷却塔 熱交換器に交換(2017/6/12)					▲			

171106第8回焼却活動第三者会議資料

11

## 6. 焼却運転の実績 -保管溶媒の残液量の推移-



171106第8回焼却活動第三者会議資料

12

## 参考資料

### 焼却設備計画の経緯(1) (2014年)

2014年

- 1/ 6 設備撤去工事着工
- 8/ 8 第1回 第三者会議 : 規約確認、焼却設備進捗報告
- 8/28 住民説明会開催(5回目) : 設備見学、焼却設備進捗報告
- 10/ 6 放射線モニタリング測定値の公表開始
- 11/20 消防による危険物取扱所の完成検査受検
- 11/21 安全協定締結6自治体立入調査
- 12/ 3 近隣4自治会へ回覧 : 焼却設備の近況お知らせ
- 12/11 灯油・新品溶媒使用試運転開始
- 12/19 第1回 空間線量調査会
- 12/19 第2回 第三者会議 : 試運転状況見学、安全対策説明

171106第8回焼却活動第三者会議資料

13

### 焼却設備計画の経緯(2) (2015年)

2015年

- 1/17 近隣4自治会へ回覧 : 焼却設備の近況お知らせ
- 1/19 保管溶媒使用試運転開始
- 3/12 住民説明会開催(6回目) : 試運転結果報告
- 3/16～ 通常運転に移行
- 4/ 9 第2回 空間線量調査会
- 6/11 第3回 第三者会議  
: 通常運転状況見学、運転実績説明
- 7/22 住民説明会開催(定期) : 進捗状況報告
- 7/24 第3回 空間線量調査会
- 10/22 第4回 空間線量調査会
- 11/26 第4回 第三者会議  
: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

171106第8回焼却活動第三者会議資料

14

# 焼却設備計画の経緯(3) (2016年)

2016年

1/27 第5回 空間線量調査会

4/20 第6回 空間線量調査会

6/ 3 第5回 第三者会議

: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

7/22 第7回 空間線量調査会

7/25 住民説明会開催(定期)

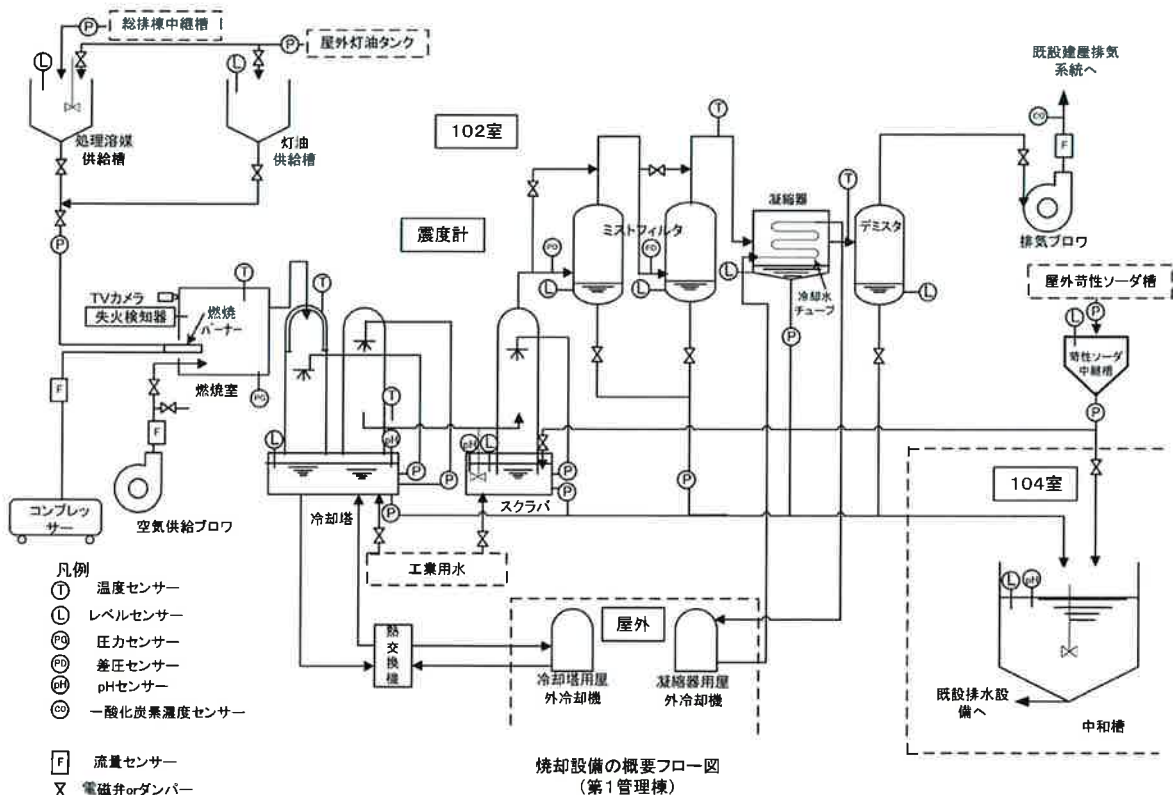
: 進捗状況報告

10/17 第8回 空間線量調査会

11/8 第6回 第三者会議

: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

## 焼却設備の概要(1) 焼却設備の構成



## 焼却設備の概要(2)



焼却炉本体



冷却塔



スクラバ



ミストフィルタ

171106第8回焼却活動第三者会議資料

17

## 用語集

### ・保管廃棄物(放射性固体廃棄物)

固体廃棄施設内で保管中の放射性固体廃棄物。収納物は、紙、ポリ類等の可燃物と金属、コンクリート等の不燃物。旧加工設備の作業中の不用物や設備撤去工事における撤去物を鋼製容器(200Lドラム等)に密充填して固体廃棄施設に搬出する。

### ・固体廃棄施設

保管廃棄物(放射性固体廃棄物)を保管する施設(建物)。

### ・旧加工設備

臨界事故前に加工事業(ウラン粉末の製造)で作業していた設備。

### ・空間線量調査会

保管溶媒焼却の安全性確認のために設置され、定期的に(原則として年4回)、弊社敷地内4箇所の定点の空間放射線量率を、自治体にお立会いいただき 近隣住民の皆さまとともに計測し、焼却による環境への影響がないことを確認するための会議。

### ・第三者会議

保管溶媒焼却の安全性確認のために設置され、定期的に(原則として年2回)、焼却設備の運転状況を確認して いただくために、住民代表、放射性廃棄物の 処理・放射線管理・保安及びリスクコミュニケーションの専門家、自治体からのオブザーバーで構成される会議。

171106第8回焼却活動第三者会議資料

18

・30%TBP-nドデカン

TBP30%、ノルマルドデカン70%の容積割合で混ぜた油類。

・ベクレル Bq

放射能(放射線を出す能力)の量を表す単位 (放射性物質から1秒間に出る放射線の量)。

・検出下限値

分析装置で検出できる最小の値。安全協定の放出管理目標値より1桁低い値である。

・ $3.7 \times 10^{-10}$  ベクレル/cm<sup>3</sup>

0.00000000037 ベクレル/cm<sup>3</sup>、1立方センチメートル当たり100億分の3.7ベクレルの放射エネルギー。

・ $7.4 \times 10^{-4}$ ベクレル/cm<sup>3</sup>

0.00074 ベクレル/cm<sup>3</sup>、1立方センチメートル当たり1万分の7.4ベクレルの放射エネルギー。